

2022. 2. 7

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

赤塚の林 春を待つ

田遊びの御神木・ニワトコが芽を吹いた



毎年2月11日、徳丸北野神社では春を迎える行事「田遊び」が執り行われます（大門諏訪神社は2月13日）。平安時代の古文書に記録されている伝統行事です。（農耕文化が始まった時代からだと考えられますが）人々が1年間の五穀豊穡・子孫繁栄を願って始めた奉りごと。この田遊びで、田を耕す鋤の柄に見立てられて使われるのがニワトコの枝。ニワトコは落葉樹の中で春のいちばん最初に葉を伸ばすので、エネルギーの象徴とみられてきたのでしょう。

その通り、2/7のモニタリングでは、立派な芽吹きが観察されました。

露地はカサカサでも、林のふちの地面は落ち葉が乾燥を防いでいる

ため池公園（写真右）ではウメが本格的に咲き始めました。でも、梅林の下の地面はカサカサに乾いていて、野草の葉も消えています。今年に入ってから日本列島は猛烈な寒気に襲われていて、とくに日本海側は例年になく大雪に悩まされていますが、東京では1/6の降雪以来、雨らしい雨が降っておらず乾燥した日々が続いている結果です。

土壌の乾燥は落ち葉の下で春の芽出しをうかがっている野草にはよくありません。



特にニリンソウの根茎は地表近くの土の中で生きているので、土壌が乾燥して水分がなくなってしまうと生きていられないのです。そんなことを気にしながらの、2/7のモニタリングでした。

でも、落ち葉が土壌の乾燥を防いでいるようです。前回1/31のレポートでは落ち葉の「暖房効果」を見ましたが、今回は「保湿効果」も認められました（左の写真はニリンソウよりも1週間ほど早く満開になるジロボウエンゴサクの展葉）。



「春一番」の花にヒメオドリコソウとオオイヌノフグリが復活



ひと昔前まで、春一番に咲く野草はヒメオドリコソウとオオイヌノフグリでした。ところが、この数年ではフラサバソウという野草がいちば

ん先に咲くようになりました。今年はどうかなあと観察していたところ、フラサバソウの葉の展開は遅く、ようやく本葉を伸ばし始めたばかりでした。草原の明るい場所では、ヒメオドリコソウ（上の写真左）とオオイヌノフグリ（同右）が「春一番」の座に返り咲きました。両方とも、花はまだ縮んでいきます。

となると・・・、気になるのはニンソウ・・・、どうかしら？

ニンソウの葉が地上に見え始めるのは通常2月の中旬。ところがこの数年は極寒の1月にかなりたくさんのニンソウが咲いている「異常早期開花」が観察されていました。今年はどうかということ、早咲きのニンソウはあるにはあるのですが、それほど目立ちません。落ち葉を掻き分けてみると、根茎からぽちりと芽を出し始めているのが観察できました。



ラニーニャ現象で去年と違うかも

この数年は温暖化の中の冬でしたが、ラニーニャ現象の今年は寒さが戻っているからかもしれません。天気予報では2/10、2/11頃に東京でも雪が降るとか。水分は必要とはいえ、芽吹き始めた野草に雪はどう影響するのか、気候変化をよ〜く見定めた植物観察が続きます。

今年のニンソウ月間は3/19（日）～4/17（日）

↓大門自生地前のロープ柵内も枯草を刈って、春の準備が整いました



*** ニンソウ自生地保護活動**

ニンソウ月間前の手入れ

2/20 10:00 大門観察台集合

*** 2月のモニタリング 2/14、2/21**

9:00 ため池公園スタート

<いずれも誰でも大歓迎 飛び入りOK>

問合せ：赤塚公園サービスセンター

03-3938-5715